

## セクシャル・マイノリティー(性的少数者)の学生環境に関するアンケート調査(教職員向け)結果

### 教職員向け

回答(全文):69、未完了回答:44、回答合計:113

1. LGBTという言葉を知っていますか？またその意味を知っていますか？

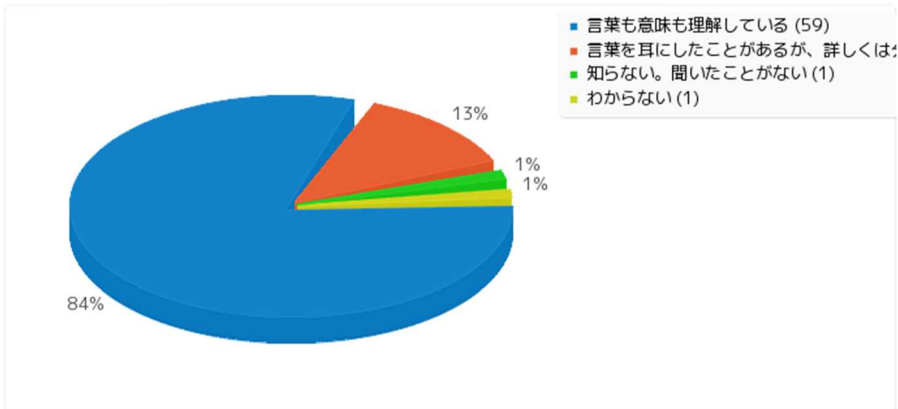
言葉も意味も理解している:59(84.29%)

言葉を耳にしたことがあるが、詳しくは分からない:9(12.86%)

知らない。聞いたことがない:1(1.43%)

わからない:1(1.43%)

学生回答と比較すると、言葉を認識している割合が学生よりも教職員の方が大きい(91.2%/97.2%)。

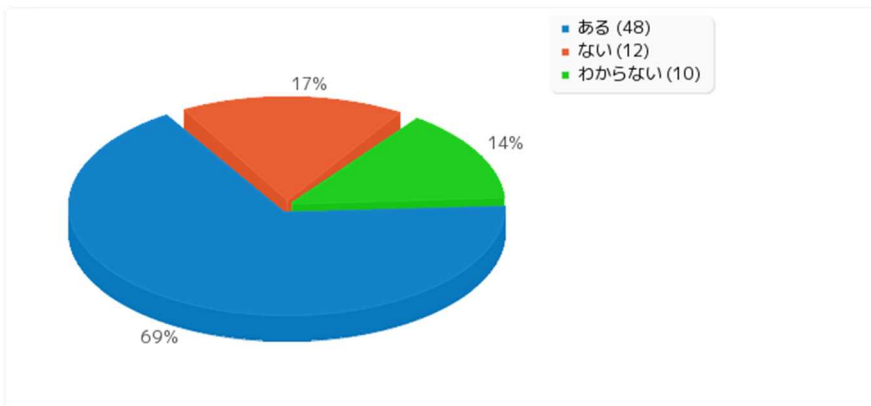


2. 今までに LGBT の学生もしくは LGBT と思われる学生に接したことはありますか？

ある:48(68.57%)

ない:12(17.14%)

わからない:10(14.29%)



<ある場合> どのような時、場面でしたか？ 学生が LGBT であるということで、何か特別な対応をしましたか？ 具体的に教えてください。その対応をする際には迷わずに対応できましたか。何か難しく思った点などありますか。

回答数:48(68.57%)

「ある」と回答した回答者全員が回答している。分類すると、「窓口・授業・入試面接にて接したが、特別な対応はしなかった(特別とは思わない)(24名)」、「氏名に関する対応(8名)」、「接したことはないが LGBT 学生は APU にも多くいるはず、性別や性的志向に固執したり偏見をもったりしないようにしている(7名)」、「その他(9名)」となる。

特別な対応はしなかった(特別とは思わない)という回答の具体例は、「多目的トイレの場所を聞かれたため

案内した(1名)」「カミングアウト及び相談を受けたがプライドを持って勉学に励むよう指導した(1名)」「就職活動の際にスカートでなくパンツスーツを着用してもよいかと聞かれたため、よいと思いますと回答した(1名)」「ゲイが受け入れられやすい授業内の環境づくりをしている(2名)」であった。

「その他(9名)」では、「無知な部分もあり知らず知らずのうちに傷つけてしまっているのではないか」「学生自身の振舞い方について考えを述べる機会がほしいという心理相談を受けたことがあり、話を聞くこと自体に難しさは感じないが、それ以上に何ができるのかと思悩む」「授業評価アンケートの性別欄修正の要望を学生より受け、要望自体についてどう対応すべきか判断に迷った」「他の学生がいないところで個別に話すなどの気遣いが必要だった」といった迷いや難しさが読み取れる回答もあった。

### 3. APU は LGBT 学生に対してどのような環境だと思いますか？

とてもすごしやすい:0(0.00%)

すごしやすい:13(18.57%)

どちらでもない:22(31.43%)

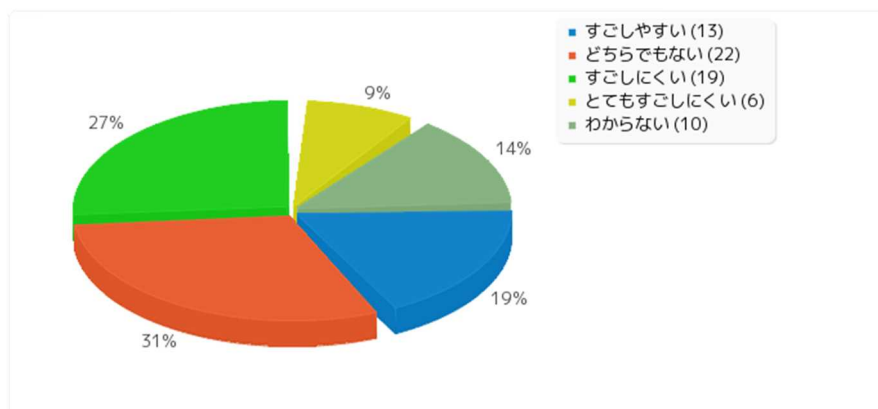
すごしにくい:19(27.14%)

とてもすごしにくい:6(8.57%)

わからない:10(14.29%)

「どちらでもない」の回答が最も多く、他は「とてもすごしやすい」「すごしやすい」という肯定的な回答が 18.6%、「すごしにくい」「とてもすごしにくい」という否定的な回答が 35.7%、となる。

学生回答と比較すると、「どちらでもない(41.8%/31.4%)」の回答割合が最も大きいという点は共通するが、その他の回答割合については、教職員回答では、肯定的意見(27.4%/18.6%)よりも、否定的意見(17.9%/35.7%)の回答割合の方が大きい。



その理由は？ 回答数:58(82.86%)

「すごしやすい(13名)」という回答の主な理由として、「表立った差別がないから」「個々の違いを受け入れる風土があるから」等が挙げられる。

「どちらでもない(22名)」という回答の主な理由として、「LGBT に対し理解のある人が多い一方で、大学としてサポートやポリシーを持ってはいないから」「多国籍・多文化であるが故に、LGBT に対する理解や寛容性も様々なため」等が挙げられる。

「すごしにくい(19名)」という回答の主な理由として、「アンケート・呼称・トイレ・シャワー等あらゆるものが男女の2つの区分を前提にしているから」「LGBT 学生をあまり見聞きしないということは、それだけマイノリティーの割合が高く、存在自体を認識されていないということだから」等が挙げられる。

「とてもすごしにくい(6名)」という回答の主な理由として、「大学として LGBT 支援が課題とされておらず、非差別ポリシーや専門的なサポートがないから」「そもそも日本社会が LGBT の存在を容認しておらず、APU 全体でも意識が非常に低いから」等が挙げられる。

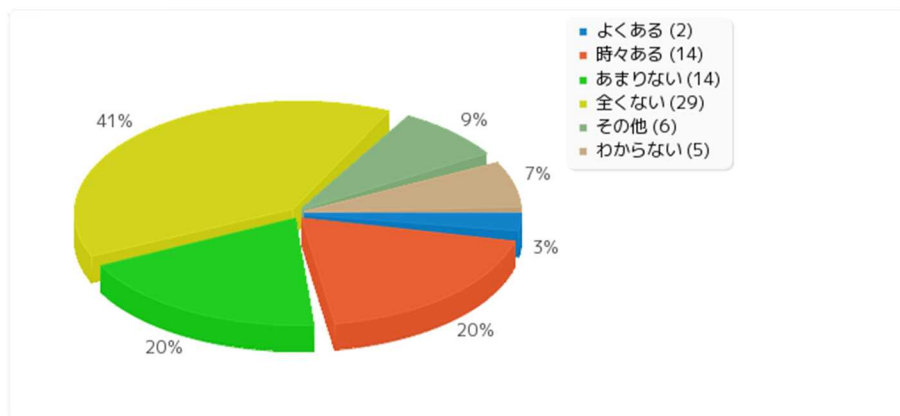
### 4. 学生や教職員が、LGBT に対して否定的であったり、嘲笑するような話題の会話をしたり、行動を取っていたのをキャンパス内外で見聞きしたことはありますか？

よくある:2(2.86%)

時々ある:14(20.00%)  
 あまりない:14(20.00%)  
 全くない:29(41.43%)  
 その他:6(8.57%)  
 わからない:5(7.1%)

「全くない」と回答した回答者が 41.4%と最も割合が大きく、次いで、「時々ある」と「あまりない」の合計が 40%、「その他」8.6%、「わからない(未回答)」7.1%、「よくある」2.9%、の順となる。学生は「あまりない」と「時々ある」を合わせた回答数が 45.9%と最も多く、教職員は「全くない 41.4%」の次が「あまりない」と「時々ある」を合わせた 40.0%であった。

「その他(6名)」の主な回答として、「専任職員が当事者志願者について否定的な言動をしていたと聞いた」「RU ではしばしばあったが APU ではほとんど無い」「嘲笑まではいかないが、『ゲイみたいだ』『ゲイかもしれない』といった冗談めいたからかいの表現や噂の対象となる場面がある」等が挙げられる。



(よくある、時々ある、と答えた場合のみ)それは具体的にどのような場面でありましたか？

回答数:18(25.71%)

回答を分類すると、「教職員や学生に限らず、会話の中で嘲笑や否定的な発言がある(11名)」「公のもの(ウイークのグランドショーやキャンパスターミナル、学生生活ハンドブック等)での、男女区分を前提とした表現やゲイに対するジョーク(4名)」「出身文化的に LGBT を認められない人たちによる強い批判(2名)」「その他(3名)」となる(重複回答あり)。その他では、「ヘルスガイダンスの性感染症に関するレクチャーで、同性カップルが例示された際にどっと笑いが起こり、真面目な当事者にとっては耐え難いものではないか」「LGBT は存在しないと決めつけた会話」等が挙げられる。

5. LGBT 学生に接する際に、知っておきたいことなどありますか？ (例:LGBT 学生に接する際に気をつけること、呼称や代名詞の選び方、何を知っておけばよいのかわからない、等)

回答数:43(61.43%)

回答を分類すると、「特別な対応はすべきでない、個々を受け入れることが重要(2名)」「LGBT に関する知識全般、呼称や代名詞、その他対応の際に気を付けるべきこと(24名)」「知識が既にあるため、特にない(3名)」「APU にはどういったサポートがあり、どんなポリシーでいるのか(4名)」「性別を記入させるか否か(2名)」「その他(8名)」である。

その他の回答は、「言語クラスにて男女のロールプレイを時々行うが、他の選択肢がなく LGBT 啓発が難しい」「LGBT 学生がアイデンティティについて悩んだ時にサポートできる体制があれば良い」「何を知っておけばいいかわからない」「当事者学生がどういった環境で学び生活をしたのか、そのために職員に何を求めるのかを知りたい」「不快な呼称を持つ学生がいれば、開講前にオフィスより当該学生の情報がほしい」「学生から要望があれば、その通りの名前と呼ぶ」「自分のクラスに『This classroom is an LGBTQ+ Safe Zone.』というサインを掲げたい」「他の学生や教職員に、代名詞やジェンダーレスな言葉など、もっと LGBT について興味関心をもってほしい」である。

6. APU で必要だと思われる LGBT 学生に対する支援があれば、書いてください。

回答数:45 (64.29%)

回答を分類すると、「啓蒙活動(講演会や正課教育、LGBT 関連の学生活動の推奨)(19 名)」「教職員や学生スタッフへの研修・教育、情報提供(9 名)」「ジェンダーフリーなトイレの設置(9 名)」「性別記入欄の見直し(7 名)」「支援体制づくり(話し合いのできる場、カウンセリングへの行きづらさ解消、サポートグループ・連携ルート、カウンセラー増員、ピアサポート)(13 名)」「ポリシー(非差別、通称名使用、性別選択)の作成、大学の姿勢の表明(8 名)」「LGBT 支援をオープンにする(2 名)」「LGBT 教職員への支援(2 名)」「その他(3 名)」となる(重複回答あり)。その他の回答は、「LGBT 教員がいれば、学生の良いロールモデルとなる」「正直よく分からない」「AP ハウスでは心の性で対応できているかどうか」である。

7. その他、何でもご意見がある場合は自由にご記入ください。

回答数:24 (34.29%)

主だった回答として、「多文化だけでなく、個人の違いを個性として受け入れていこうという方向性は、多様性(ダイバーシティ)を受け入れる大学としてとてもいい傾向だと考えています。」「多様性は APU の柱の 1 つであり、LGBT に関する施策についても学内でより推し進める必要があります。教職員への教育を始めることがその第一歩であり、それにより LGBT 学生に対し適切なマナーをもって接することができると、私は信じています。」「今まで日本で働いた職場の中で LGBT 職員の多い職場だと感じています。職員のニーズも考えるべきではないでしょうか。彼らは学生の模範になっていますから。」「学生のみならず、LGBT 教職員がいることについても考えていかなければならない。APU は LGBT 教職員にとって働きやすい職場なのかどうか。」「教室には左利きの学生用の机があったり、車いす使用の学生の机があったりしますよね。LGBT はどのような支援を必要としているのでしょうか。授業内で「性別」を意識することがあまりないのでどのように扱えばいいのかわからないというのが本音です。」等が見受けられた。